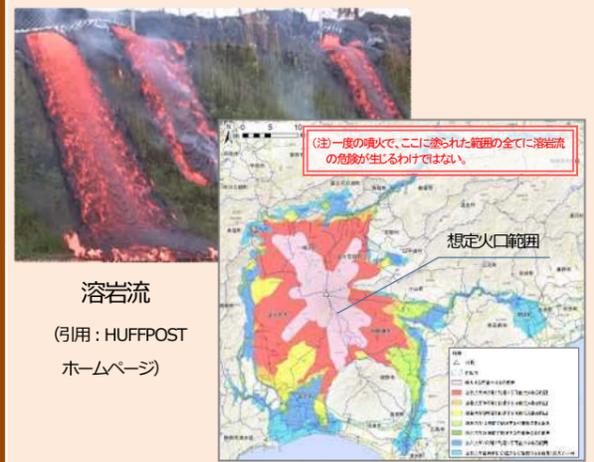
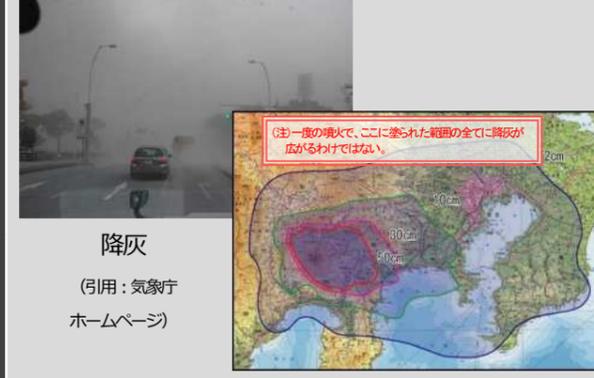


富士山噴火による溶岩流や降灰の影響を知ろう

富士山はこれまで幾度となく噴火をしてきた活火山ですが、1707年の宝永噴火以降、300年以上噴火しておらず、いつ噴火してもおかしくありません。昨年3月、最新の知見を踏まえ、17年ぶりに富士山ハザードマップが改定されました。そこで、富士山周辺地域や関東地方において交通や物流などに大きな影響をもたらすおそれのある溶岩流と降灰について、これらの火山現象及びハザードマップがどのようなものか紹介します。

<p style="writing-mode: vertical-rl;">溶岩流</p>	 <p>溶岩流 (引用: HUFFPOST ホームページ)</p> <p>溶岩流の可能性マップ</p>	<p>溶岩流ってどんな現象? 高温でドロドロに溶けたマグマが地表に出ると溶岩と呼ばれ、溶岩が斜面を流れ下る現象を溶岩流といいます。冷えて固まって厚く堆積すると地形を変えてしまうことがあります。溶岩流が道路に流れると、道路が埋没して使用できなくなることがあります。</p> <p>溶岩流の可能性マップとは 富士山は噴火前に火口の位置が分かりません。そのため、噴火する可能性のある範囲(想定火口範囲)から噴火し、溶岩流が流れ下った場合に、「可能性としてどこまで到達するか、何時間で到達するか」を示したものが、溶岩流の可能性マップです。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">降灰</p>	 <p>降灰 (引用: 気象庁 ホームページ)</p> <p>降灰の可能性マップ</p>	<p>降灰ってどんな現象? 噴火により溶岩や岩石が細かく砕けて火山灰となって降ってきます。直径2mm以下のものを火山灰といいます。視界が悪くなり、降灰の厚さが1cm前後になると、走行車両はタイヤのスタックや、スリップ事故が発生し、滞留車両が発生する可能性があります。</p> <p>降灰の可能性マップとは 宝永規模の噴火※が発生して火山灰が降った場合、最大で何cmの火山灰が降り積もる可能性があるのかを示したハザードマップです。 ※ 約5600年前以降、最大の火砕物噴火</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">降灰後土石流</p>	 <p>降灰後土石流 (引用: 雲仙復興事務所 ホームページ)</p> <p>降灰後土石流の可能性マップ</p>	<p>降灰後土石流ってどんな現象? 火山の噴火後、火山灰の降り積もった地域に雨が降ると土石流が発生しやすくなります。こうした土石流や泥流は、高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。道路上を土石流が襲うと、車両が飲み込まれたり、通行ができなくなることがあります。</p> <p>降灰後土石流の可能性マップとは 降灰の可能性マップで示す降灰の厚さ10cm以上の範囲に存在する土石流が発生する危険がある渓流と、土砂災害警戒区域を示しています。</p>

富士山ハザードマップを見て、事業所等で火山災害への備えについて話し合ってみてください。

富士山ハザードマップ(改定版)はホームページから閲覧することができます

静岡県危機情報課ホームページ(富士山ハザードマップ(改定版))
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html>
 または

検索

記事作成: 静岡県危機情報課

中部防災だより NO.11 令和4年春号

トピックス

- ・市町の災害史を知ろう
- ・ふじのくに地球環境史ミュージアムで自然と災害について学ぼう
- ・富士山噴火による溶岩流や降灰の影響を知ろう



編集・発行
 静岡県中部地域局
 藤枝市瀬戸新屋362-1
 藤枝総合庁舎本館2階
 TEL 054-644-9104
 Mail chubu-kiki@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県の自然と災害について学びましょう

阪神・淡路大震災から27年、東日本大震災から11年となります。記憶の風化が心配されるところです。災害をなくすことはできませんが、過去に学び備えることで、災害の被害を減らし命を守ることはできます。今号では、静岡県の自然と災害を学ぶことができるサイトや施設を紹介します。

【静岡縣市町村災害史】

県内各地で過去どのような災害が起こったかが市町村別にまとめられています。



静岡県 災害史

「静岡縣市町村災害史」のページはこちらから。
 災害史を見て知識を得ることで、防災に対する心構えを一層強め、災害による被害を最小限に食い止めることが期待されています。

中部

- ・静岡市南部
- ・静岡市中部
- ・静岡市北部
- ・清水市
- ・富士川町
- ・由比町

志太・榛原

- ・島田市
- ・焼津市
- ・藤枝市
- ・岡部町
- ・大井川町
- ・吉田町
- ・金谷町
- ・川根町
- ・中川根町
- ・本川根町

静岡県 HP

例示は島田市

地形概況
 大井川左岸の伊久美川・相模川・大津谷川流域の丘陵と山地が広く、谷底低地をもつ。大井川扇状地の扇頂部も低地帯をもち、田圃も分布する。南部は牧の原台地の岡田層・色尾段丘からなる。大井川は広い河床を形成している。

地質概況
 北部山地は三倉層群の泥岩・泥岩砂岩互層・瀬戸川層群の頁岩砂岩互層・宝珠岩類火砕岩などからなる。東部山地は大井川層群の頁岩・砂岩が分布する。大井川右岸の牧の原台地の砂礫層は大井川層群・相模層群を基盤とする。扇状地は厚い砂礫層が堆積する。

気象概況
 年平均気温は15.0℃、年平均降水量が2,271mm(中央町)。平坦地と山間地との温度差が大きく、冬季は空っ風が台地から吹き降ろす。降雨は県内の平均よりやや少なく、春から夏季(4月から8月)にかけて全降水量の約50%が降る。

災害事例 地震
 ・1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
 震中・西部で被害が大きかった。当地では震度5程度であった。
 ・1857年7月14日(安政4年) M=6.1/4
 この地震で所々家がつぶれ、8人の死者が出た。地割れから泥を噴出した根の根木が動きまた倒れた家があった。

見たい市町村を選びます。 ※合併前の旧市町村で掲載されています。
 ○地形・地質・気象概況
 ○地震・津波・台風等の災害事例
 ○防災上の留意点 等が掲載されており、同種の災害が起これば、それぞれの地域でどのような被害がでるか推察できます。

【国土地理院 自然災害伝承碑】

災害の記録を後世に伝える各地の石碑などを紹介しています。





国土地理院 伝承碑

「国土地理院 自然災害伝承碑」のページはこちらから。
 先人たちの教訓を学び、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減につなげましょう。



国土地理院 HP



激甚災害対策特別緊急事業完成記念碑(焼津市)

自然災害伝承碑を示す地図記号は2019年3月に作られました。公開数は全国367市区町村1224基(2022年1月14日時点)となっています。スマートフォンでも利用でき、まち歩きをしながら防災の知識を深められるので、とても便利だと感じました。

ふじのくに地球環境史ミュージアムで 自然と災害について学ぼう

PICK UP!
展示室 2 **ふじのくにのすがた** 自然の恵みと脅威

県内に見られる生物や岩石・化石など自然物（自然史標本）を多数展示するふじのくに地球環境史ミュージアムでは、豊かな自然の恵みはもちろん、甚大な災害をもたらす脅威としての自然からも目をそらしません。一見すると対照的な「脅威」と「恵み」が表裏一体のものであることを、展示室2は伝えます。



展示室2の主な展示物

- 洪水：狩野川台風、七夕豪雨
- 土砂災害：大谷崩れ、大沢崩れ
- 津波：安政&明応東海地震津波
- 大地震：東海地震、北伊豆地震
- 火山噴火：宝永噴火、貞観噴火 など

自然の脅威

水地熱

自然の恵み

- 地下水：柿田川、大井川
- 美しい景観：富士山、駿河湾
- 豊富な食材：お茶、サクラエビ
- 温泉：熱海、伊東、伊豆高原
- もの作り：模型、軽自動車 など

|| 高低差 6000m の急峻な地形と約 2400 mm/年の降雨がもたらす水の脅威と恵み ||



1974 (昭和 49) 年の七夕豪雨 (清水区)



富士山からの豊富な地下水 (柿田川)

|| プレートの衝突による活発な地殻変動がもたらす地の脅威と恵み ||



1707年の宝永地震による山体崩壊 (大谷崩れ)



安倍川の土砂供給によって形成された三保半島

百年後の静岡が豊かであるために

当ミュージアムは、日本の縮図と言える静岡県の多様な自然を読み解くことで、人が自然と共生する未来のあり方を皆さんに考えていただきます。自然環境の成り立ちと現在の生物多様性について、学校備品を活用した展示から学ぶことができます。



学校備品を活用した標本展示



豊かな食材と酒の原材料から生物多様性を考える企画展

公開シンポジウム

「21世紀は災害の世紀か—生命と大地—」

Risk and Resilience in the 21st century -Environment and Ecosystem-

2022年3月19日(土) 10:20-16:00 (開場 9:30)

会場：グランシップ11階 会議ホール「風」

参加費：無料 (要事前申込み)

お申込みはこちら▶



温暖化・グローバル化による生物種絶滅や外来種・ウイルスなどの蔓延、地震、土砂災害など、今世紀に入り「自然災害」はますます身近に忍び寄ってきました。本シンポジウムを通して、これら自然災害の現状を知り、向き合い方や復興について一緒に考えていきましょう。



Photo: 竹田 武史

ふじのくに地球環境史ミュージアム

〒422-8017 静岡市大谷 5762

電話番号 | 054-260-7111

開館時間 | 10:00-17:30 (最終入館 17:00)

休館日 | 毎週月曜 (月曜が祝日の場合は次の平日)、年末年始

ミュージアムホームページ
二次元コード ▶



記事作成：ふじのくに地球環境史ミュージアム